

<H16-4-A : 解説>

最大誤差なので、分画と距離の互いの最大誤差を加えたものと、加えない場合との比較を行えばよい。

$$70.0\text{m} \times (+20.0 \text{ 分画}/100) = +14.00\text{m} \text{ (最大誤差を加えない)}$$

$$70.1\text{m} \times (+20.1 \text{ 分画}/100) = +14.09\text{m} \text{ (最大誤差を加える)}$$

よって、 $dh(\text{MAX}) = 9\text{cm}$

解答 : 4

<H16-4-B : 解説>

TS を用いる数値地形測量では支距法は用いる事ができない。

(後方交会法は作業規程で認められているが、一般的には放射法が無難である)
その他は、問題文の通り。

解答 : 2

<H16-4-C : 解説>

ア : 地物基準では地理情報レベル 500 にはふさわしくない。レベル 2500 向け。

イ : TS を用いれば、十分な精度が見込める。

ウ : 平板測量の精度に左右される欠点もあるが、この選択肢の中では妥当な方法に挙げられる。

エ : レベル 2500 はレベル 500 の基礎データには不適當。

オ : 作成年度が不明確な既成図では経年変化等が反映されず不適當。

解答 : 4

<H16-4-D : 解説>

L 7 の始終点の座標値を見ると、始点が L 2 と同じであり、P 5 に向かっていると考えられる。

L 2 ~ L 4 は全て右向きである。

その他は、問題文の通り。

解答 : 3